

9 船橋商圏（準商業中心都市）

(1) 商圏の概要

表IV-9-1 船橋商圏

商圏 (基準吸引率)	旧・市町村区界				現・市町村区界					
	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)		
		市町村 吸引率				市町村 吸引率				
第1次 (30%以上)	計	2	70.7%	678,416	479,597	計	2	70.7%	678,416	479,597
	船橋市		77.6%	574,985	446,188	船橋市		77.6%	574,985	446,188
	鎌ヶ谷市		32.3%	103,431	33,408	鎌ヶ谷市		32.3%	103,431	33,408
第2次 (10~30%未満)	計	2	15.9%	626,919	99,946	計	2	15.9%	626,919	99,946
	習志野市		25.5%	158,806	40,496	習志野市		25.5%	158,806	40,496
	市川市		12.7%	468,113	59,450	市川市		12.7%	468,113	59,450
第3次 (5~10%未満)	計	1	6.5%	54,102	3,517	計	1	6.5%	54,102	3,517
	白井市		6.5%	54,102	3,517	白井市		6.5%	54,102	3,517
合計		5	42.9%	1,359,437	583,059		5	42.9%	1,359,437	583,059

注1) 吸引率=吸引人口÷商圏人口×100

注2) 各商圏内の最上段吸引率は圏内加重平均(圏内吸引人口計÷圏内商圏人口計×100)

注3) 市町村・商圏人口は平成18年10月1日現在(千葉県毎月常住人口調査より)

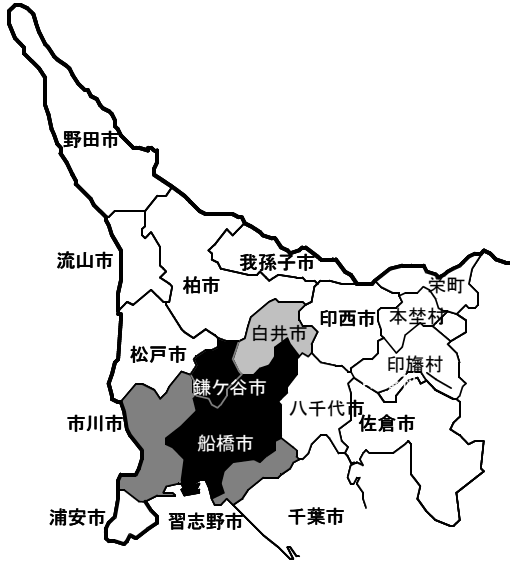
但し、旧市町村人口は平成18年10月末日現在(各市町村住民基本台帳字別人口表より)

○船橋商圏は、葛南ブロックを中心に東葛ブロックの南部、千葉ブロックの北部を取り込み、5市から形成され、商圏人口は約136万人（船橋市人口の約2.4倍）、商圏からの吸引人口は約58万人（同約101%）、商圏内吸引率は42.9%となっている。

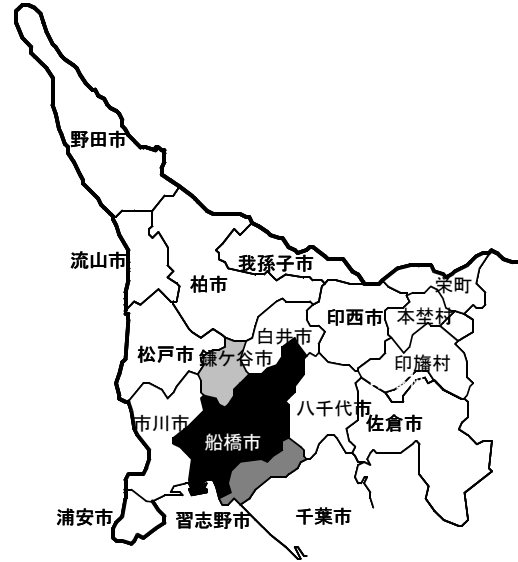
○第1次商圏は2市で吸引率の平均は70.7%、第2次商圏は2市で吸引率の平均は15.9%、第3次商圏は1市で吸引率は6.5%となっている。

図IV-9-1 船橋商圏（衣料品・食料品・飲食・贈答品）

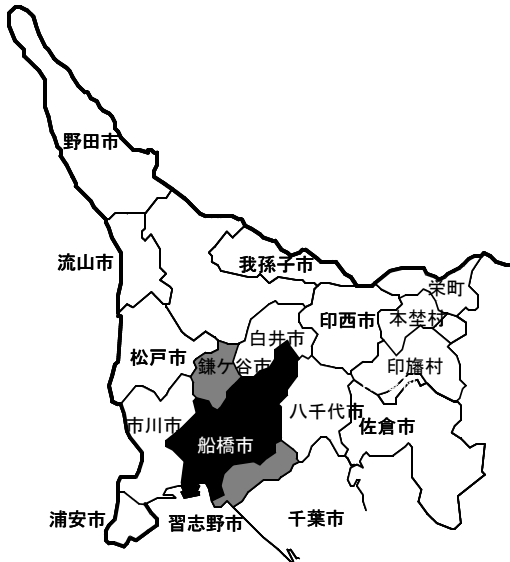
(衣料品)



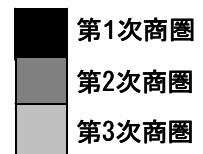
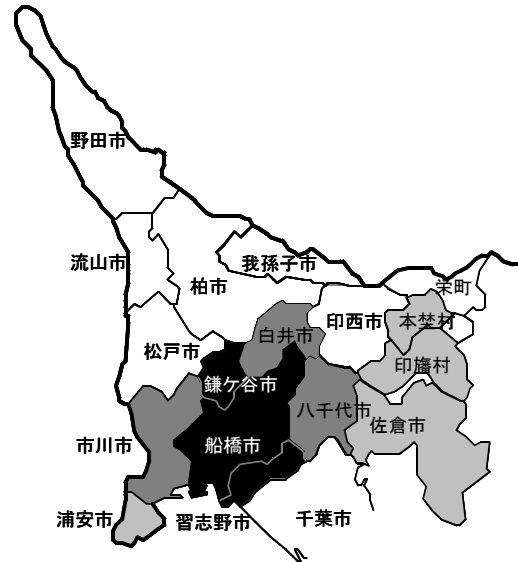
(食料品)



(飲食)



(贈答品)



(2) 旧市町村区界での前回調査との比較

○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は船橋市1市であったが、第2次商圏から1市が入ったため、1増して2市となった。
- ・第2次商圏は3市であったが、1市が第1次商圏に、1市が第3次商圏に移動し、一方、第3次商圏から1市が入ったため、1減して2市となった。
- ・第3次商圏は2市であったが、1市が圏外に出て、1市が第2次商圏へ移動し、1市が第2次商圏から入ったため、1減して1市となった。
- ・商圏全体では、6市であったものが、1減して5市となった。

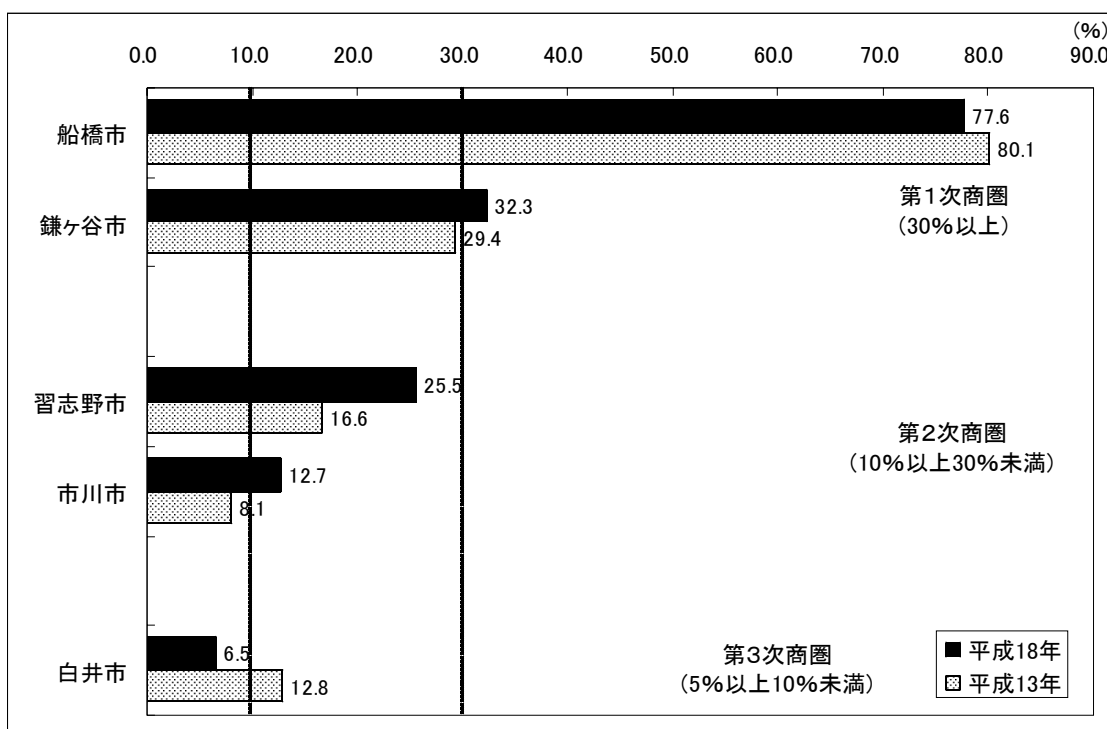
○商圏人口：前回調査時（1,487,729人）から減少して1,359,437人となった。（前回比▲8.6%）

○商圏内吸引率：前回調査時（37.3%）から上昇して42.9%となった。（前回比＋6ポイント）

○吸引人口：商圏人口が減少したものの吸引率が上昇したことから、前回調査時（555,039人）から増加して583,059人となった。（前回比＋5.0%）

○吸引力：吸引人口が増加したことから、前回調査時（100.3%）から上昇して101.4%となった。（前回比＋1ポイント）

図IV-9-2 船橋市の吸引状況の変化（旧市町村区界）



(3) 市町村合併による市町村区界変化に伴う変化

○商圏内市町村数：第1次商圏、第2次商圏、第3次商圏のいずれでも市町村合併は発生しておらず、市町村合併による変化はない。

↓

(現市町村区界での商圏の前回調査との比較)

○市町村合併による変化はなく、前記(2)項が現市町村区界での商圏の前回調査との比較となる。

(4) 衣料品購入における商圏内市町村の具体的な変化

○衣料品購入における船橋商圏内の市町村の具体的な変化を表Ⅳ－9－2に示す。

表Ⅳ－9－2 船橋商圏の市町村の変化（衣料品）

衣料品 商圏 (基準吸引率)	平成13年		平成18年(旧・市町村区界)			平成18年(現・市町村区界)	
	市町村	平成18年 での変化	市町村	平成13年 からの 変化	市区界変化 による商圏 からの移動	市町村	平成13年 からの 変化
第1次 (30%以上)	計 1		計 2			計 2	
	船橋市		船橋市			船橋市	
			※ 鎌ヶ谷市	第2次から		※ 鎌ヶ谷市	第2次から
第2次 (10～30%未満)	計 3		計 2			計 2	
	習志野市		習志野市			習志野市	
	※ 白井市	第3次へ	※ 市川市	第3次から		※ 市川市	第3次から
	※ 鎌ヶ谷市	第1次へ					
第3次 (5～10%未満)	計 2		計 1			計 1	
	※ 八千代市	圏外へ	※ 白井市	第2次から		※ 白井市	第2次から
	※ 市川市	第2次へ					
合計	6		5			5	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

(5) その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における商圏内市町村の具体的な変化

○その他の品目の購入における船橋商圏内の市町村の具体的な変化を表Ⅳ－9－3に示す。

表Ⅳ－9－3 船橋商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年 市町村		平成18年(現・市町村区界) 市町村	
	平成18年 での変化		平成13年 からの変化	
食料品	第1次 (30%以上)	計 1 船橋市	計 1 船橋市	
	第2次 (10～30%未満)	計 0	計 1 ※ 習志野市 新規	
	第3次 (5～10%未満)	計 1 鎌ヶ谷市	計 1 鎌ヶ谷市	
	合計	2	3	
飲食	第1次 (30%以上)	計 1 船橋市	計 1 船橋市	
	第2次 (10～30%未満)	計 2 習志野市 鎌ヶ谷市	計 2 習志野市 鎌ヶ谷市	
	第3次 (5～10%未満)	計 1 ※ 白井市 圏外へ	計 0	
	合計	4	3	
贈答品	第1次 (30%以上)	計 3 習志野市 鎌ヶ谷市 船橋市	計 3 習志野市 鎌ヶ谷市 船橋市	
	第2次 (10～30%未満)	計 3 八千代市 白井市 市川市	計 3 八千代市 白井市 市川市	
	第3次 (5～10%未満)	計 1 佐倉市	計 4 佐倉市 ※ 印旛村 新規 ※ 本埜村 新規 ※ 浦安市 新規	
	合計	7	10	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内

△印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

10 木更津商圏（準商業中心都市）

(1) 商圏の概要

表IV-10-1 木更津商圏

商圏 (基準吸引率)	旧・市町村区界				現・市町村区界					
	市町村	市町村 吸引率	商圏人口 (人)	吸引人口 (人)	市町村	市町村 吸引率	商圏人口 (人)	吸引人口 (人)		
									市町村	市町村
第1次 (30%以上)	計	2	76.3%	182,043	138,930	計	2	76.3%	182,043	138,930
	木更津市		84.2%	122,745	103,351	木更津市		84.2%	122,745	103,351
	袖ヶ浦市		60.0%	59,298	35,579	袖ヶ浦市		60.0%	59,298	35,579
第2次 (10~30%未満)	計	1	16.4%	90,142	14,783	計	1	16.4%	90,142	14,783
	君津市		16.4%	90,142	14,783	君津市		16.4%	90,142	14,783
第3次 (5~10%未満)	計	4	6.6%	48,467	3,196	計	1	6.4%	36,170	2,315
	旧・鴨川市		6.8%	29,822	2,028	鴨川市		6.4%	36,170	2,315
	旧・天津小湊町		5.0%	7,244	362					
	旧・富浦町		5.4%	5,623	304					
	旧・富山町		8.7%	5,778	503					
合計		7	48.9%	320,652	156,910		4	50.6%	308,355	156,028

注1) 吸引率=吸引人口÷商圏人口×100

注2) 各商圏内の最上段吸引率は圏内加重平均(圏内吸引人口計÷圏内商圏人口計×100)

注3) 市町村・商圏人口は平成18年10月1日現在(千葉県毎月常住人口調査より)

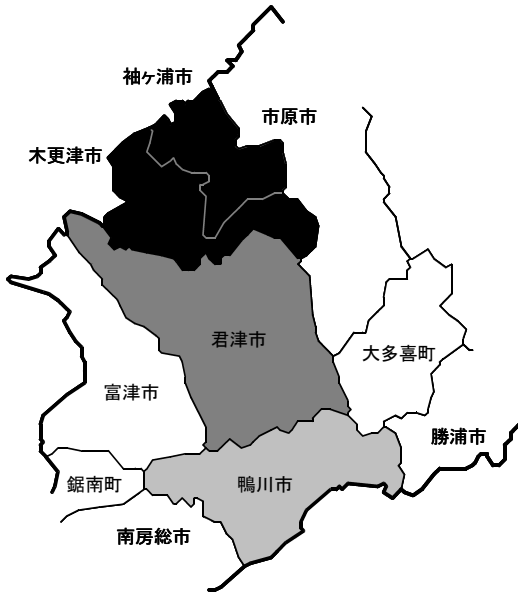
但し、旧市町村人口は平成18年10月末日現在(各市町村住民基本台帳字別人口表より)

○木更津商圏は君津ブロックを中心に4市から形成され、商圏人口は約31万人(木更津市人口の約2.5倍)、商圏からの吸引人口は約16万人(同約127%)、商圏内吸引率は50.6%となっている。

○第1次商圏は2市で吸引率の平均は76.3%、第2次商圏は1市で吸引率は16.4%、第3次商圏は1市で吸引率は6.4%となっている。

図IV-10-1 木更津商圏（衣料品・食料品・飲食・贈答品）

(衣料品)



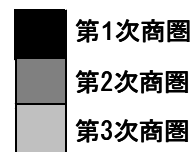
(食料品)



(飲食)



(贈答品)



(2) 旧市町村区界での前回調査との比較

○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は、3市であったうち、1市が第2次商圏へ移動したことから、1減して2市となった。
- ・第2次商圏には該当する市町村がなかったが、第1次商圏から1市が入った。
- ・第3次商圏は1市1町であったが、その2市町がいずれも圏外に出た代わりに、新たに1市3町が入ったことから、2増して1市3町となった。
- ・商圏全体では、5市町（4市1町）であったものが、2増して7市町（4市3町）となった。

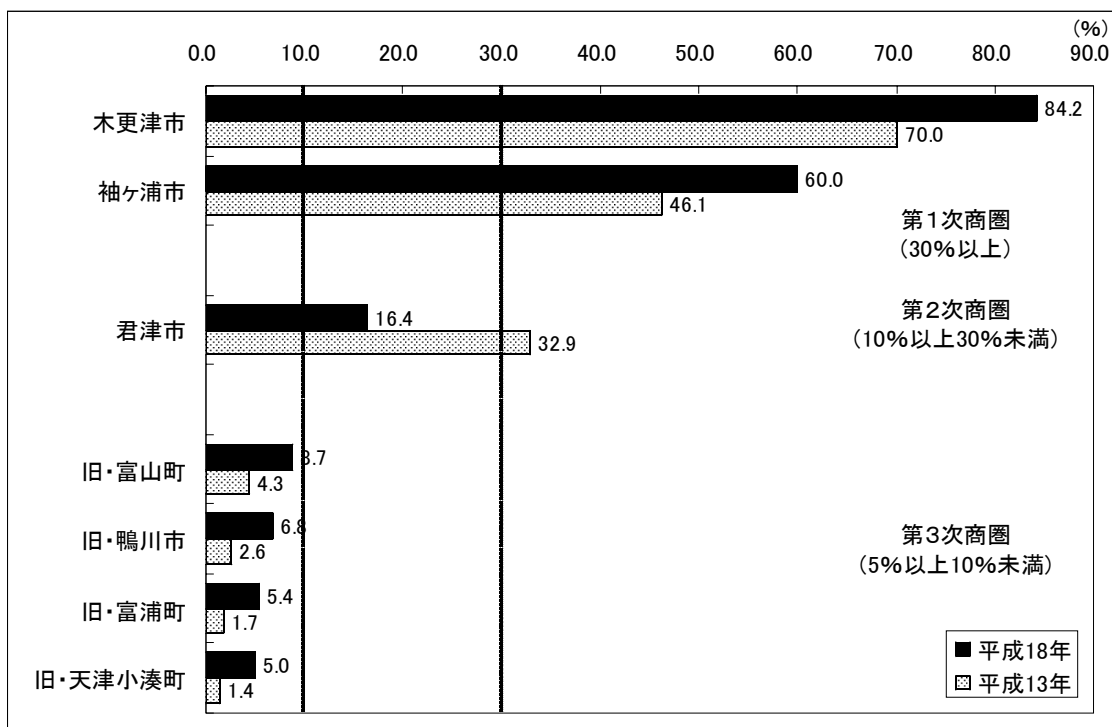
○商圏人口：前回調査時（336,266人）から減少して320,652人となった。（前回比▲4.6%）

○商圏内吸引率：前回調査時（43.6%）から上昇して48.9%となった。（前回比＋5ポイント）

○吸引人口：商圏人口は減少したものの吸引率が上昇したことから、前回調査時（146,769人）から増加して156,910人となった。（前回比＋6.9%）

○吸引力：吸引人口が増加したことから、前回調査時（119.6%）から上昇して127.8%となった。（前回比＋8ポイント）

図IV-10-2 木更津市の吸引状況の変化（旧市町村区界）



(3) 市町村合併による市町村区界変化に伴う変化

○商圏内市町村数

- ・第1次商圏、第2次商圏では市町村合併は発生しておらず変化はない。
- ・第3次商圏は、旧市町村区界では1市3町であるが、新市町村区界では1市1町が合併により1市となったが第3次商圏にとどまり、他の2町は合併後（合併新市が）圏外に出たため、3減で1市となった。
- ・商圏全体では、旧市町村区界では7市町（4市3町）であったが、新市町村区界では3減して4市となった。前回調査時の5市町村（4市1町）との比較では1減となった。

↓

（現市町村区界での商圏の前回調査との比較）

○商圏人口：現市町村区界での商圏人口は前回調査時（336,266人）から減少して308,355人となった。（前回比▲8.3%）

○商圏内吸引率：前回（43.6%）から上昇して50.6%となった。（前回比＋7ポイント）

○吸引人口：商圏人口は減少したものの吸引率が上昇したことから、前回（146,769人）から増加して156,028人となった。（前回比＋6.3%）

○吸引力：吸引人口が増加したことから、前回（119.6%）から上昇して127.1%となった。（前回比＋7ポイント）

(4) 衣料品購入における商圏内市町村の具体的な変化

○衣料品購入における木更津商圏内の市町村の具体的な変化を表IV-10-2に示す。

表IV-10-2 木更津商圏の市町村の変化（衣料品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年		平成18年(旧・市町村区界)			平成18年(現・市町村区界)	
	市町村	平成18年 での変化	市町村	平成13年 からの 変化	市区界変化 による商圏 からの移動	市町村	平成13年 からの 変化
第1次 (30%以上)	計 3		計 2			計 2	
	木更津市		木更津市			木更津市	
	※君津市	第2次へ	袖ヶ浦市			袖ヶ浦市	
	袖ヶ浦市						
第2次 (10～30%未満)	計 0		計 1			計 1	
			※君津市	第1次から		※君津市	第1次から
第3次 (5～10%未満)	計 2		計 4			計 1	
	※富津市	圏外へ	※旧・鴨川市	新規	○(鴨川市)	※鴨川市	☆
	※鋸南町	圏外へ	※旧・天津小湊町	新規	○(鴨川市)		
			※旧・富浦町	新規	×(南房総市)		
			※旧・富山町	新規	×(南房総市)		
合計	5		7			4	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が圏外 ☆印は市町村合併市

(5) その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における商圏内市町村の具体的な変化

○その他の品目の購入における木更津商圏内の市町村の具体的な変化を表IV-10-3に示す。

表IV-10-3 木更津商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

商圏 (基準吸引率)		平成13年 市町村		平成18年 での変化		平成18年(現・市町村区界) 市町村		平成13年 からの変化	
食料品	第1次 (30%以上)	計	1		計	1			
			木更津市			木更津市			
	第2次 (10~30%未満)	計	1		計	1			
		※	君津市	第3次へ	※	袖ヶ浦市	第3次から		
	第3次 (5~10%未満)	計	1		計	1			
	※	袖ヶ浦市	第2次へ	※	君津市	第2次から			
	合計		3			3			
飲食	第1次 (30%以上)	計	2		計	2			
			木更津市			木更津市			
		※	君津市	第3次へ	※	袖ヶ浦市	第2次から		
	第2次 (10~30%未満)	計	1		計	0			
		※	袖ヶ浦市	第1次へ					
第3次 (5~10%未満)	計	1		計	3				
			富津市	※	君津市	第1次から			
					富津市				
	合計		4		※	鴨川市	☆新規		
						5			
贈答品	第1次 (30%以上)	計	3		計	2			
			木更津市			木更津市			
		※	君津市	第2次へ		袖ヶ浦市			
	第2次 (10~30%未満)	計	0		計	1			
					※	君津市	第1次から		
第3次 (5~10%未満)	計	1		計	1				
			富津市			富津市			
	合計		4			4			

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村
 ○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内
 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下
 ×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

1 1 館山商圏（準商業中心都市）

(1) 商圏の概要

表IV-11-1 館山商圏

商圏 (基準吸引率)	旧・市町村区界				現・市町村区界					
	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)		
		市町村 吸引率				市町村 吸引率				
第1次 (30%以上)	計	9	80.5%	105,365	84,793	計	3	80.9%	104,029	84,120
	館山市		87.3%	50,294	43,907	館山市		87.3%	50,294	43,907
	旧・富浦町		84.9%	5,623	4,774	南房総市		76.9%	44,174	33,970
	旧・富山町		60.0%	5,778	3,467	鋸南町		65.3%	9,561	6,243
	旧・三芳村		89.5%	4,504	4,031					
	旧・白浜町		86.0%	5,770	4,962					
	旧・千倉町		75.0%	12,582	9,437					
	旧・丸山町		85.7%	5,663	4,853					
	旧・和田町		55.8%	5,590	3,119					
	鋸南町		65.3%	9,561	6,243					
第2次 (10～30%未満)	計	0	-	-	-	計	0	-	-	-
第3次 (5～10%未満)	計	1	5.2%	29,822	1,551	計	0	-	-	-
	旧・鴨川市		5.2%	29,822	1,551					
合計		10	63.9%	135,187	86,344		3	80.9%	104,029	84,120

注1) 吸引率=吸引人口÷商圏人口×100

注2) 各商圏内の最上段吸引率は圏内加重平均(圏内吸引人口計÷圏内商圏人口計×100)

注3) 市町村・商圏人口は平成18年10月1日現在(千葉県毎月常住人口調査より)

但し、旧市町村人口は平成18年10月末日現在(各市町村住民基本台帳字別人口表より)

○館山商圏は安房ブロックに2市1町から形成され、商圏人口は約10万人(館山市人口の約2.1倍)、商圏からの吸引人口は約8万人(同約167%)、商圏内吸引率は80.9%となっている。

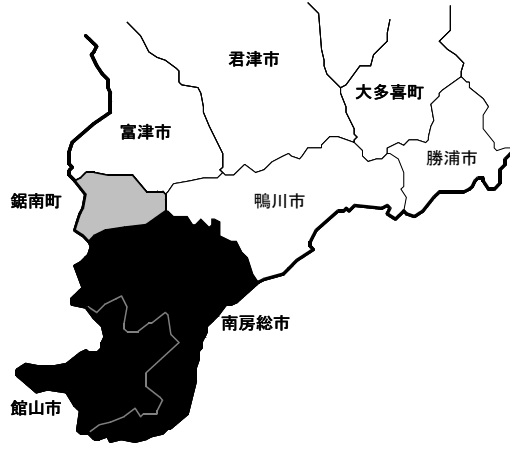
○第1次商圏は2市1町で吸引率の平均は80.9%となっており、第2次商圏・第3次商圏に該当する市町村はない。

図IV-11-1 館山商圏（衣料品・食料品・飲食・贈答品）

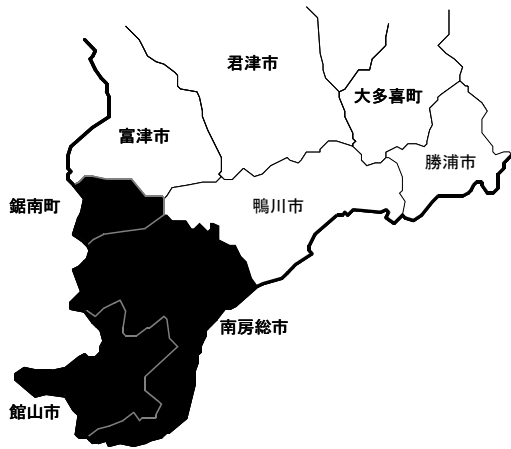
(衣料品)



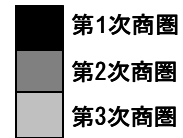
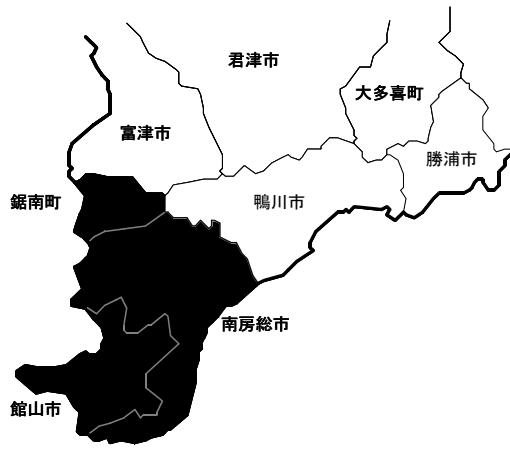
(食料品)



(飲食)



(贈答品)



(2) 旧市町村区界での前回調査との比較

○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は前回調査時の1市7町1村から変化はない。
- ・第2次商圏には前回調査時と同様、該当する市町村がない。
- ・第3次商圏は前回調査時の1市から変化はない。
- ・商圏全体でも前回調査時の10市町村（2市7町1村）から変化はない。

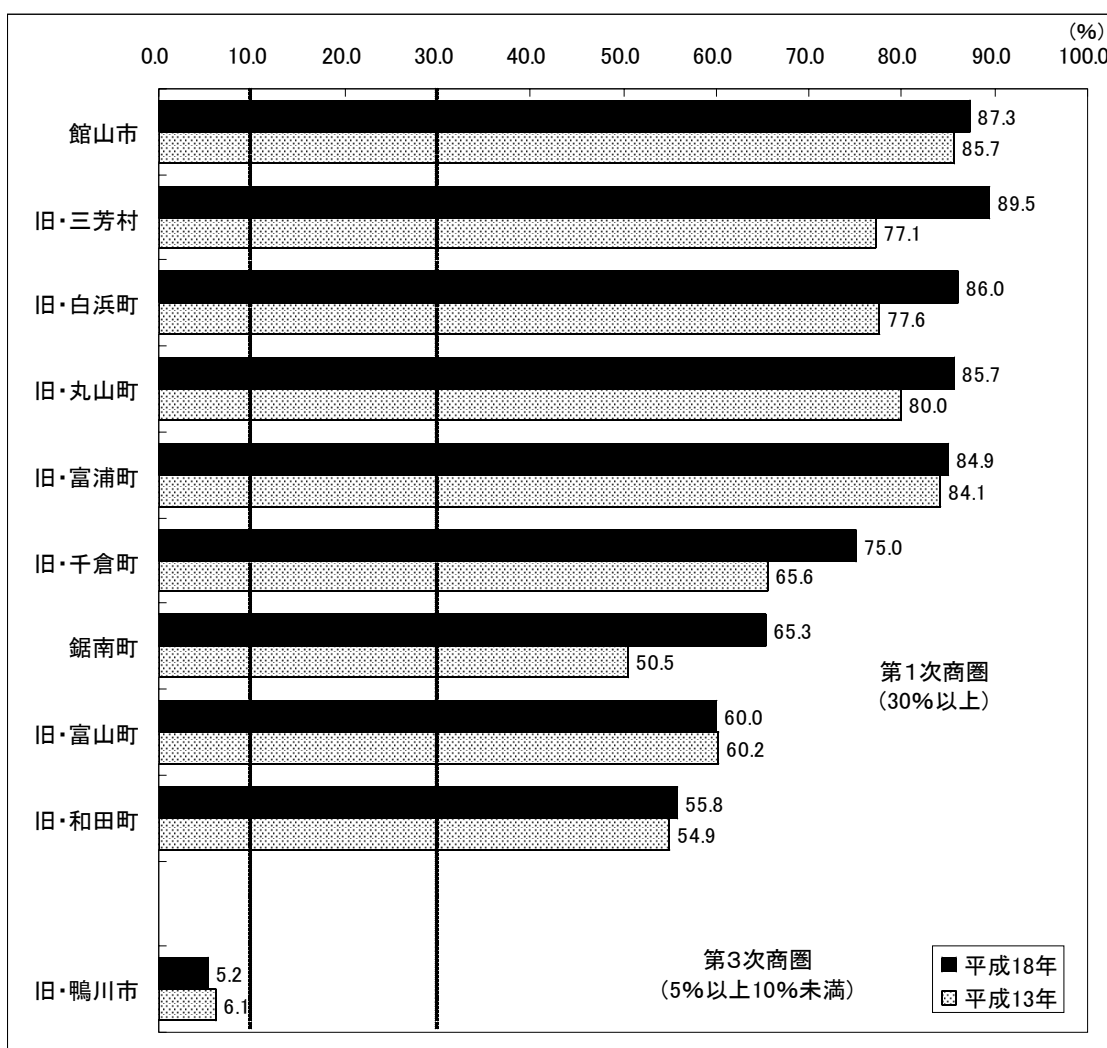
○商圏人口：前回調査時（138,121人）から減少して135,187人となった。（前回比▲2.1%）

○商圏内吸引率：前回調査時（60.6%）から上昇して63.9%となった。（前回比＋3ポイント）

○吸引人口：商圏人口は減少したものの吸引率が上昇したことから、前回調査時（83,749人）から増加して86,344人となった。（前回比＋3.1%）

○吸引力：吸引人口が増加したことから、前回調査時（163.7%）から上昇して171.7%となった。（前回比＋8ポイント）

図IV－1 1－2 館山市の吸引状況の変化（旧市町村区界）



(3) 市町村合併による市町村区界変化に伴う変化

○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は、旧市町村区界では1市7町1村であるが、新市町村区界では6町1村が合併により1市となったため、6減して2市1町となった。
- ・第2次商圏には該当する市町村が存在しない。
- ・第3次商圏は、旧市町村区界では1市であるが、新市町村区界ではその1市が圏外への他町と合併後（合併新市が）圏外へ出たため、該当する市町村が無くなった。
- ・商圏全体では、旧市町村区界では10市町村（2市7町1村）であったが、新市町村区界では7減して3市町（2市1町）となった。前回調査時の10市町村（2市7町1村）との比較でも7減となった。

↓

（現市町村区界での商圏の前回調査との比較）

○商圏人口：現市町村区界での商圏人口は前回調査時（138,121人）から減少して104,029人となった。（前回比▲24.7%）

○商圏内吸引率：前回（60.6%）から上昇して80.9%となった。（前回比+20ポイント）

○吸引人口：商圏人口は減少したものの吸引率が上昇したことから、前回（83,749人）から微増して84,120人となった。（前回比+0.4%）

○吸引力：吸引人口が微増し、自市人口が減少（▲1.7%）したことから、前回（163.7%）から上昇して167.3%となった。（前回比+4ポイント）

(4) 衣料品購入における商圏内市町村の具体的な変化

○衣料品購入における館山商圏内の市町村の具体的な変化を表IV-11-2に示す。

表IV-11-2 館山商圏の市町村の変化（衣料品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年 市町村		平成18年(旧・市町村区界) 市町村			平成18年(現・市町村区界) 市町村	
	平成18年 での変化		平成13年 からの 変化	市区界変化 による商圏 からの移動	平成13年 からの 変化		
第1次 (30%以上)	計	9	計	9		計	3
	館山市		館山市			館山市	
	旧・富浦町		旧・富浦町		○(南房総市)	南房総市	☆
	旧・富山町		旧・富山町		○(南房総市)	鋸南町	
	旧・三芳村		旧・三芳村		○(南房総市)		
	旧・白浜町		旧・白浜町		○(南房総市)		
	旧・千倉町		旧・千倉町		○(南房総市)		
	旧・丸山町		旧・丸山町		○(南房総市)		
	旧・和田町		旧・和田町		○(南房総市)		
	鋸南町		鋸南町				
第2次 (10~30%未満)	計	0	計	0		計	0
第3次 (5~10%未満)	計	1	計	1		計	0
	旧・鴨川市		※旧・鴨川市		×(鴨川市)		
合計	計	10	計	10		計	3

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

(5) その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における商圏内市町村の具体的な変化

○その他の品目の購入における館山商圏内の市町村の具体的な変化を表Ⅳ－１１－３に示す。

表Ⅳ－１１－３ 館山商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年 市町村		平成18年(現・市町村区界) 市町村	
			平成13年 からの変化	
食料品	第1次 (30%以上)	計 5 館山市 旧・富浦町 ○(南房総市) 旧・三芳村 ○(南房総市) 旧・白浜町 ○(南房総市) 旧・丸山町 ○(南房総市)	計 1 館山市 南房総市 ☆	
	第2次 (10～30%未満)	計 ※ 2 旧・富山町 ○(南房総市) 旧・千倉町 ○(南房総市)	計 0	
	第3次 (5～10%未満)	計 0	計 ※ 1 鋸南町 新規	
	合計	計 7	計 2	
飲食	第1次 (30%以上)	計 9 館山市 旧・富浦町 ○(南房総市) 旧・富山町 ○(南房総市) 旧・三芳村 ○(南房総市) 旧・白浜町 ○(南房総市) 旧・千倉町 ○(南房総市) 旧・丸山町 ○(南房総市) 旧・和田町 ○(南房総市) 鋸南町	計 3 館山市 南房総市 ☆ 鋸南町	
	第2次 (10～30%未満)	計 0	計 0	
	第3次 (5～10%未満)	計 ※ 1 旧・鴨川市 圏外へ	計 0	
	合計	計 10	計 3	
贈答品	第1次 (30%以上)	計 9 館山市 旧・富浦町 ○(南房総市) 旧・富山町 ○(南房総市) 旧・三芳村 ○(南房総市) 旧・白浜町 ○(南房総市) 旧・千倉町 ○(南房総市) 旧・丸山町 ○(南房総市) 旧・和田町 ○(南房総市) 鋸南町	計 3 館山市 南房総市 ☆ 鋸南町	
	第2次 (10～30%未満)	計 0	計 0	
	第3次 (5～10%未満)	計 0	計 0	
	合計	計 9	計 3	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内

△印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

1 2 鴨川商圏（準商業中心都市）

(1) 商圏の概要

表IV-12-1 鴨川商圏

商圏 (基準吸引率)	旧・市町村区界				現・市町村区界					
	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)		
		市町村 吸引率				市町村 吸引率				
第1次 (30%以上)	計	3	58.8%	58,840	34,608	計	2	59.1%	57,944	34,217
	旧・鴨川市		75.1%	29,822	22,396	鴨川市		76.3%	36,170	27,598
	旧・天津小湊町		77.2%	7,244	5,592	勝浦市		30.4%	21,774	6,619
	勝浦市		30.4%	21,774	6,619					
第2次 (10～30%未満)	計	1	29.6%	5,590	1,655	計	0	-	-	-
	旧・和田町		29.6%	5,590	1,655					
第3次 (5～10%未満)	計	1	7.1%	5,663	402	計	1	6.2%	44,174	2,739
	旧・丸山町		7.1%	5,663	402	南房総市		6.2%	44,174	2,739
合計		5	52.3%	70,093	36,665		3	36.2%	102,118	36,956

注1) 吸引率=吸引人口÷商圏人口×100

注2) 各商圏内の最上段吸引率は圏内加重平均(圏内吸引人口計÷圏内商圏人口計×100)

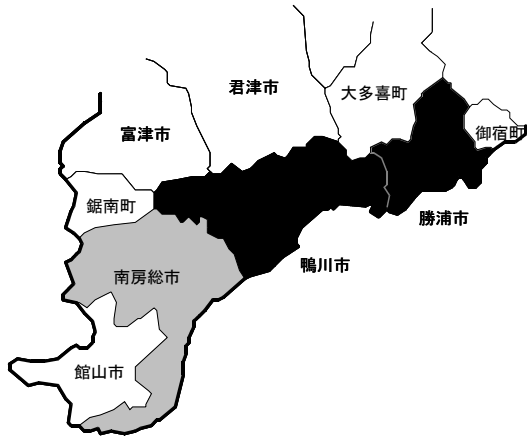
注3) 市町村・商圏人口は平成18年10月1日現在(千葉県毎月常住人口調査より)

但し、旧市町村人口は平成18年10月末日現在(各市町村住民基本台帳字別人口表より)

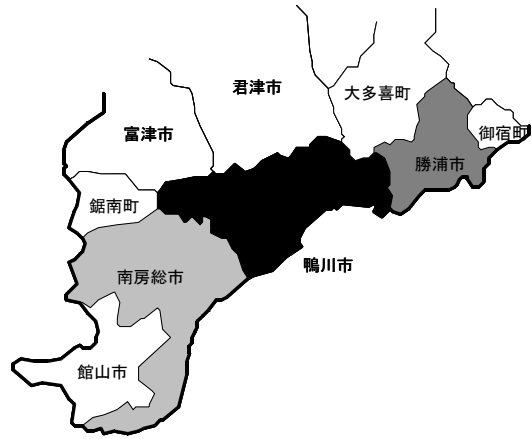
- 鴨川商圏は、安房ブロックの北東部を中心に夷隅ブロックの南部を取り込んで、3市から形成され、商圏人口は約10万人(鴨川市人口の約2.8倍)、商圏からの吸引人口は約4万人(同約102%)、商圏内吸引率は36.2%となっている。
- 第1次商圏は2市で吸引率の平均は59.1%、第2次商圏に該当する市町村はなく、第3次商圏は1市で吸引率は6.2%となっている。

図IV-12-1 鴨川商圈（衣料品・食料品・飲食・贈答品）

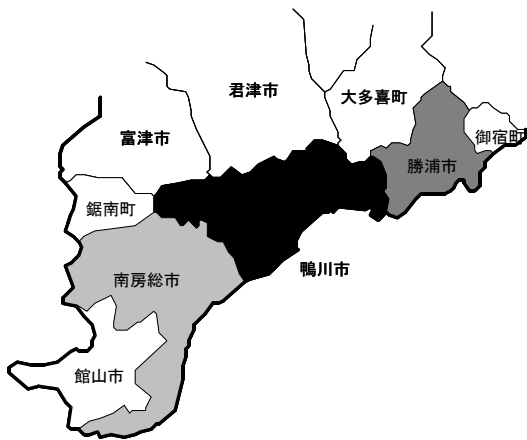
(衣料品)



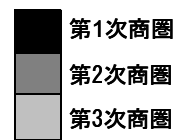
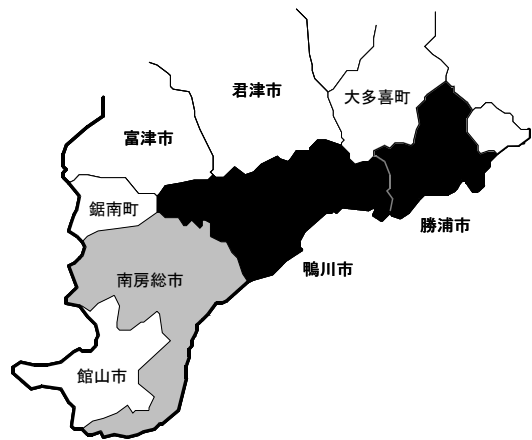
(食料品)



(飲食)



(贈答品)



(2)旧市町村区界（旧・鴨川市）での前回調査との比較

○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は前回調査時の2市1町から変化はない。
- ・第2次商圏は前回調査時の1町から変化はない。
- ・第3次商圏は、前回調査時は該当市町村は無かったが、新たに1町が入った。
- ・商圏全体では、前回調査時の4市町（2市2町）が1増して5市町（2市3町）となった。

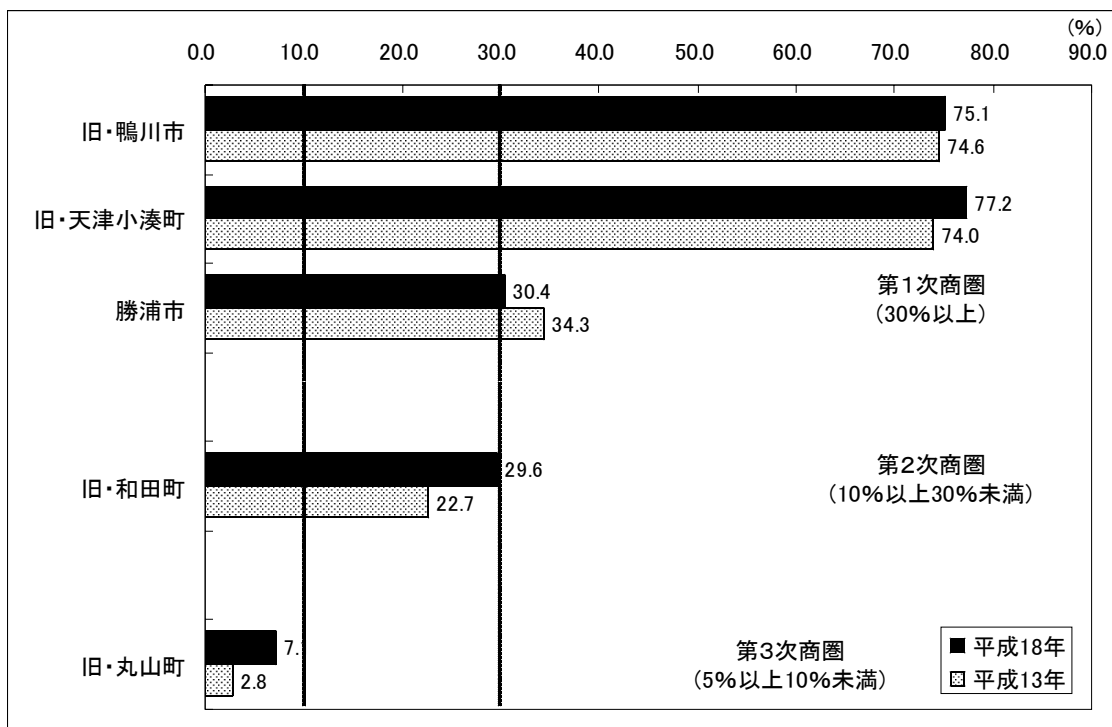
○商圏人口：前回調査時（66,236人）から増加して70,093人となった。（前回比＋5.8%）

○商圏内吸引率：前回調査時（56.0%）から低下して52.3%となった。（前回比▲4ポイント）

○吸引人口：商圏人口は増加したものの吸引率が低下したことから、前回調査時（37,109人）から減少して36,665人となった。（前回比▲1.2%）

○吸引力：吸引人口が減少したことから、前回調査時（124.3%）から低下して122.9%となった。（前回比▲1ポイント）

図IV－12－2 旧・鴨川市の吸引状況の変化（旧市町村区界）



(3) 市町村合併による市町村区界変化に伴う変化

○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は、旧市町村区界では2市1町であるが、新市町村区界では1市1町が合併により1市となったため、1減して2市となった。
- ・第2次商圏は、旧市町村区界では1町であるが、その1町が合併後（合併新市が第3次商圏に入ったため、該当する市町村はなくなった。
- ・第3次商圏は、旧市町村区界では1町であり、その1町が合併後（合併新市が第3次商圏にとどまったため、数に変化はないが1市となった。
- ・商圏全体では、旧市町村区界では5市町（2市3町）であったが、新市町村区界では2減して3市となった。前回調査時の4市町（2市2町）との比較では1減となった。

↓

（現市町村区界での商圏の前回調査との比較）

- 商圏人口：現市町村区界での商圏人口は前回調査時（66,236人）から増加して102,118人となった。（前回比+54.2%）
- 商圏内吸引率：前回（56.0%）から低下して36.2%となった。（前回比▲20ポイント）
- 吸引人口：商圏人口は増加したものの吸引率が低下したことから、前回（37,109人）から微減で36,956人となった。（前回比▲0.4%）
- 吸引力：吸引人口が減少し、自市人口が合併により増加（+21.1%）したことから、前回（124.3%）より低下して102.2%となった。（前回比▲22ポイント）

(4) 衣料品購入における商圏内市町村の具体的な変化

○衣料品購入における鴨川商圏内の市町村の具体的な変化を表IV-12-2に示す。

表IV-12-2 鴨川商圏の市町村の変化（衣料品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年(旧・鴨川市)		平成18年(旧・市町村区界)			平成18年(現・市町村区界)	
	市町村	平成18年 での変化	市町村	平成13年 からの 変化	市区界変化 による商圏 からの移動	市町村	平成13年 からの 変化
第1次 (30%以上)	計 3		計 3			計 2	
	旧・鴨川市		旧・鴨川市		○(鴨川市)	鴨川市	☆
	旧・天津小湊町		旧・天津小湊町		○(鴨川市)	勝浦市	
	勝浦市		勝浦市				
第2次 (10~30%未満)	計 1		計 1			計 0	
	旧・和田町		旧・和田町		△(南房総市)		
第3次 (5~10%未満)	計 0		計 1			計 1	
			※旧・丸山町	新規	○(南房総市)	南房総市	☆
合計	4		5			3	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

(5) その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における商圏内市町村の具体的な変化

○その他の品目の購入における鴨川商圏内の市町村の具体的な変化を表IV-12-3に示す。

表IV-12-3 鴨川商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年(旧・鴨川市) 市町村		平成18年 での変化		平成18年(現・市町村区界) 市町村		平成13年 からの変化	
食料品	第1次 (30%以上)	計	2		計	1		
			旧・鴨川市	○(鴨川市)		鴨川市	☆	
			旧・天津小湊町	○(鴨川市)				
	第2次 (10~30%未満)	計	1		計	1		
		※	旧・和田町	△(南房総市)	※	勝浦市	第3次から	
第3次 (5~10%未満)	計	1		計	1			
	※	勝浦市	第2次へ	※	南房総市	☆		
合計			4			3		
飲食	第1次 (30%以上)	計	2		計	1		
			旧・鴨川市	○(鴨川市)		鴨川市	☆	
			旧・天津小湊町	○(鴨川市)				
	第2次 (10~30%未満)	計	2		計	1		
		※	旧・和田町	△(南房総市)		勝浦市		
第3次 (5~10%未満)	計	0		計	1			
					南房総市	☆		
合計			4			3		
贈答品	第1次 (30%以上)	計	2		計	2		
			旧・鴨川市	○(鴨川市)		鴨川市	☆	
			旧・天津小湊町	○(鴨川市)	※	勝浦市	第2次から	
	第2次 (10~30%未満)	計	2		計	0		
		※	旧・和田町	△(南房総市)				
第3次 (5~10%未満)	計	0		計	1			
	※	勝浦市	第1次へ		南房総市	☆		
合計			4			3		

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内

△印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

1 3 東金商圏（準商業中心都市）

(1) 商圏の概要

表IV-13-1 東金商圏

商圏 (基準吸引率)	旧・市町村区界				現・市町村区界					
	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)		
		市町村 吸引率				市町村 吸引率				
第1次 (30%以上)	計	3	67.6%	104,966	70,908	計	2	76.3%	80,363	61,337
	東金市		76.0%	61,681	46,878	東金市		76.0%	61,681	46,878
	旧・成東町		38.9%	24,603	9,571	九十九里町		77.4%	18,682	14,460
	九十九里町		77.4%	18,682	14,460					
第2次 (10~30%未満)	計	4	14.0%	49,868	6,960	計	1	23.3%	58,527	13,637
	旧・山武町		10.4%	19,603	2,039	山武市		23.3%	58,527	13,637
	旧・蓮沼村		27.9%	4,697	1,310					
	旧・松尾町		19.3%	11,018	2,126					
	旧・横芝町		10.2%	14,550	1,484					
第3次 (5~10%未満)	計	1	9.9%	49,777	4,928	計	2	9.2%	75,505	6,960
	大網白里町		9.9%	49,777	4,928	大網白里町		9.9%	49,777	4,928
						横芝光町		7.9%	25,728	2,033
合計	8	40.5%	204,611	82,796		5	38.2%	214,395	81,935	

注1) 吸引率=吸引人口÷商圏人口×100

注2) 各商圏内の最上段吸引率は圏内加重平均(圏内吸引人口計÷圏内商圏人口計×100)

注3) 市町村・商圏人口は平成18年10月1日現在(千葉県毎月常住人口調査より)

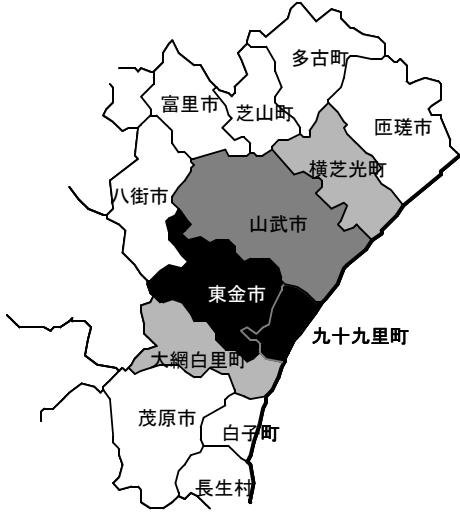
但し、旧市町村人口は平成18年10月末日現在(各市町村住民基本台帳字別人口表より)

○東金商圏は、山武ブロック一帯に2市3町から形成され、商圏人口は約21万人（東金市人口の約3.5倍）、商圏からの吸引人口は約8万人（同約133%）、商圏内吸引率は38.2%となっている。

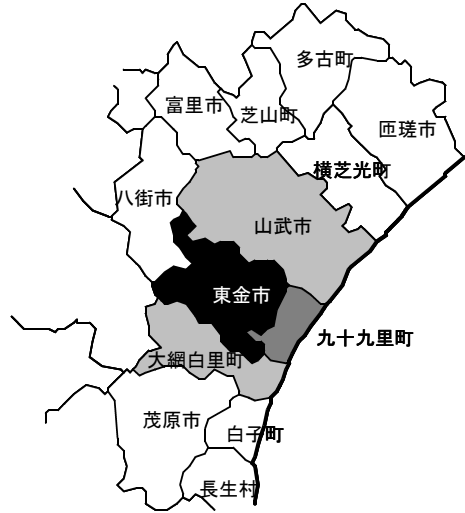
○第1次商圏は1市1町で吸引率の平均は76.3%、第2次商圏は1市で吸引率は23.3%、第3次商圏は2町で吸引率の平均は9.2%となっている。

図IV-13-1 東金商圏（衣料品・食料品・飲食・贈答品）

(衣料品)



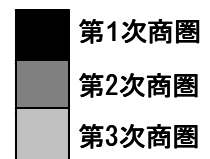
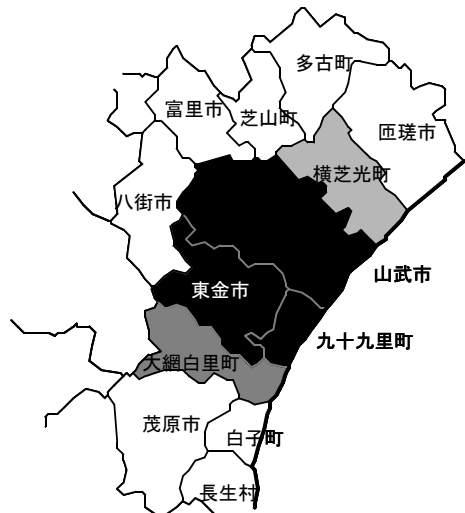
(食料品)



(飲食)



(贈答品)



(2) 旧市町村区界での前回調査との比較

○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は前回調査時の1市2町から変化はない。
- ・第2次商圏は、前回調査時には2町1村であったが、1町が第3次商圏から入り、1増して3町1村となった。
- ・第3次商圏は、前回調査時は2町であったが、1町が第2次商圏へ移動したため、1減して1町となった。
- ・商圏全体では、前回調査時の8市町村（1市6町1村）から変化はない。

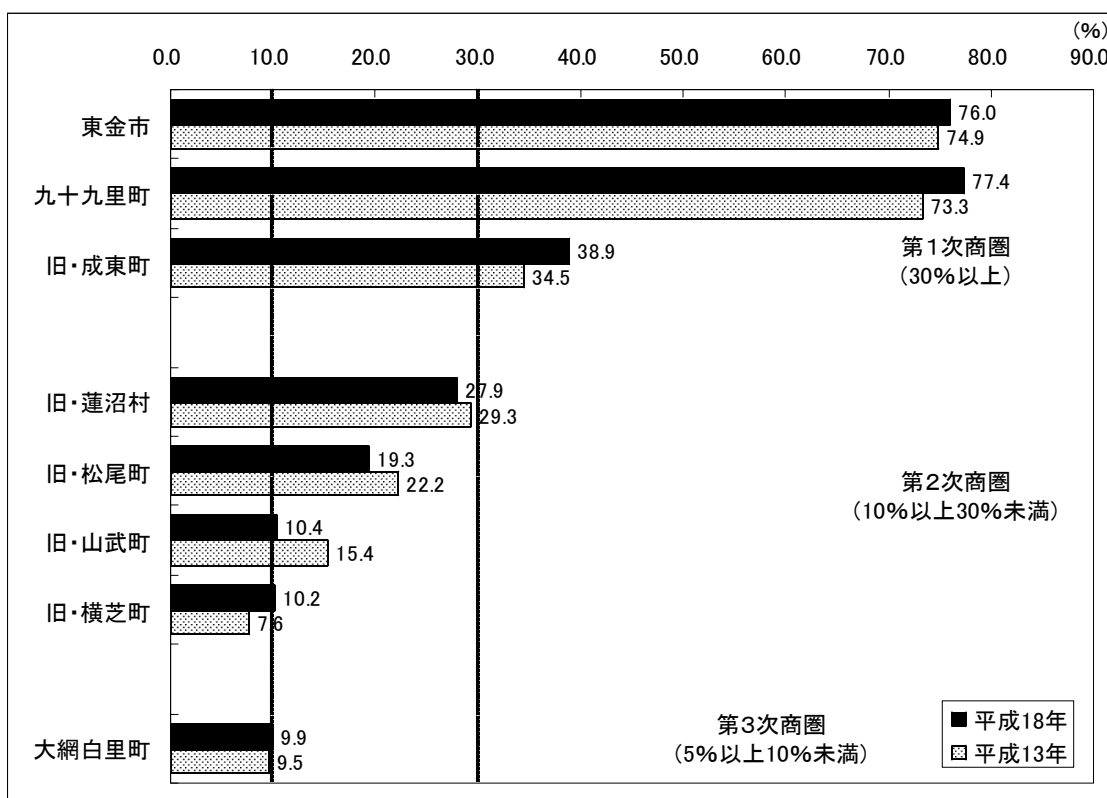
○商圏人口：前回調査時（203,299人）から増加して204,611人となった。（前回比+0.6%）

○商圏内吸引率：前回調査時（39.9%）から上昇して40.5%となった。（前回比+1ポイント）

○吸引人口：商圏人口・吸引率がともに増加したので、前回調査時（81,114人）から増加して82,796人となった。（前回比+2.1%）

○吸引力：吸引人口が増加したものの自市人口が増加（+2%）したことから、前回調査時（134.3%）から若干低下して134.2%となった。（前回比▲0.1ポイント）

図IV-13-2 東金市の吸引状況の変化（旧市町村区界）



(3) 市町村合併による市町村区界変化に伴う変化

○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は、旧市町村区界では1市2町であるが、新市町村区界では1町が合併後（合併新市が）第2次商圏へ移動したため、1減して1市1町となった。
- ・第2次商圏は、旧市町村区界では3町1村であるが、2町1村が合併により1市となり第2次商圏にとどまり、1町は合併後（合併新市が）第3次商圏に移動したため、3減して1市となった。
- ・第3次商圏は、旧市町村区界では1町であるが、第2次商圏の1町が合併後（合併新市が）第3次商圏に入ったため、1増して2町となった。
- ・商圏全体では、旧市町村区界では8市町村（1市6町1村）であったが、新市町村区界では3減して5市町（2市3町）となった。前回調査時の8市町村（1市6町1村）との比較でも3減となった。

↓

(現市町村区界での商圏の前回調査との比較)

- 商圏人口：現市町村区界での商圏人口は前回調査時（203,299人）から増加して214,395人となった。（前回比+5.5%）
- 商圏内吸引率：前回（39.9%）から低下して38.2%となった。（前回比▲2ポイント）
- 吸引人口：吸引率は若干低下したものの商圏人口が増加したことから、前回（81,114人）から増加して81,935人となった。（前回比+1.0%）
- 吸引力：吸引人口は微増したものの自市人口が増加（+2.1%）したことから、前回（134.3%）より若干低下して132.8%となった。（前回比▲1ポイント）

(4) 衣料品購入における商圏内市町村の具体的な変化

○衣料品購入における東金商圏内の市町村の具体的な変化を表IV-13-2に示す。

表IV-13-2 東金商圏の市町村の変化（衣料品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年 市町村		平成18年(旧・市町村区界) 市町村		平成18年(現・市町村区界) 市町村	
	平成18年 での変化	平成13年 からの 変化	市区界変化 による商圏 からの移動	平成13年 からの 変化	平成13年 からの 変化	
第1次 (30%以上)	計 3 東金市 九十九里町 旧・成東町	計 3	計 3 東金市 旧・成東町 九十九里町	△(山武市)	計 2 東金市 九十九里町	
第2次 (10~30%未満)	計 3 旧・山武町 旧・松尾町 旧・蓮沼村	計 4	計 4 旧・山武町 旧・蓮沼村 旧・松尾町 ※旧・横芝町	○(山武市) ○(山武市) ○(山武市) 第3次から △(横芝光町)	計 1 山武市 ☆	
第3次 (5~10%未満)	計 2 大網白里町 ※旧・横芝町	計 1	計 1 大網白里町		計 2 大網白里町 横芝光町 ☆	
合計	8	8	8		5	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

(5) その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における商圏内市町村の具体的な変化

○その他の品目の購入における東金商圏内の市町村の具体的な変化を表IV-13-3に示す。

表IV-13-3 東金商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

商圏 (基準吸引率)		平成13年		平成18年(現・市町村区界)	
		市町村		市町村	
			平成18年 での変化		平成13年 からの変化
食料品	第1次 (30%以上)	計	1	計	1
		東金市		東金市	
	第2次 (10~30%未満)	計	1	計	1
		九十九里町		九十九里町	
	第3次 (5~10%未満)	計	2	計	2
	旧・成東町	○(山武市)	山武市	☆	
	旧・蓮沼村	○(山武市)	※ 大網白里町	新規	
	合計	4		4	
飲食	第1次 (30%以上)	計	5	計	3
		東金市		東金市	
		九十九里町		山武市	☆
		旧・成東町	○(山武市)	九十九里町	
		旧・松尾町	○(山武市)		
	旧・蓮沼村	○(山武市)			
第2次 (10~30%未満)	計	3	計	3	
	大網白里町		大網白里町		
	旧・山武町	○(山武市)	横芝光町	☆	
	旧・横芝町	○(横芝光町)			
第3次 (5~10%未満)	計	0	計	0	
合計		8		5	
贈答品	第1次 (30%以上)	計	4	計	3
		東金市		東金市	
		九十九里町		山武市	☆
		旧・成東町	○(山武市)	九十九里町	
		旧・蓮沼村	○(山武市)		
第2次 (10~30%未満)	計	4	計	1	
	大網白里町		大網白里町		
	旧・山武町	○(山武市)			
	旧・松尾町	○(山武市)			
	※ 旧・横芝町	△(横芝光町)			
第3次 (5~10%未満)	計	0	計	1	
合計		8		5	

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村
 ○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内
 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下
 ×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市

1 4 匝瑳商圏（準商業中心都市）

(1) 商圏の概要

表IV-14-1 匝瑳商圏

商圏 (基準吸引率)	旧・市町村区界(旧・八日市場市)				現・市町村区界					
	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)	市町村		商圏人口 (人)	吸引人口 (人)		
		市町村 吸引率				市町村 吸引率				
第1次 (30%以上)	計	3	56.6%	53,752	30,415	計	1	61.4%	41,790	25,659
	旧・八日市場市		60.1%	31,962	19,209	匝瑳市		61.4%	41,790	25,659
	旧・野栄町		64.3%	9,804	6,304					
	旧・光町		40.9%	11,986	4,902					
第2次 (10~30%未満)	計	1	20.8%	16,769	3,488	計	2	21.9%	42,497	9,302
	多古町		20.8%	16,769	3,488	横芝光町		22.6%	25,728	5,815
第3次 (5~10%未満)	計	3	7.4%	33,891	2,500	計	1	6.2%	8,323	516
	旧・横芝町		9.7%	14,550	1,411	芝山町		6.2%	8,323	516
	旧・松尾町		5.2%	11,018	573					
	芝山町		6.2%	8,323	516					
合計		7	34.9%	104,412	36,404		4	38.3%	92,610	35,478

注1) 吸引率=吸引人口÷商圏人口×100

注2) 各商圏内の最上段吸引率は圏内加重平均(圏内吸引人口計÷圏内商圏人口計×100)

注3) 市町村・商圏人口は平成18年10月1日現在(千葉県毎月常住人口調査より)

但し、旧市町村人口は平成18年10月末日現在(各市町村住民基本台帳字別人口表より)

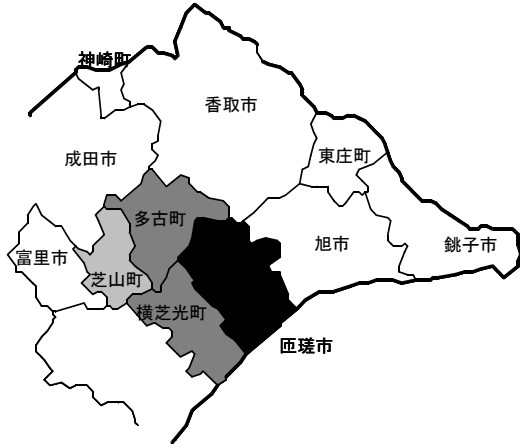
○匝瑳商圏は、海匝ブロックの西部を中心に、香取ブロックの南部・山武ブロックの北部を取り込んで、1市3町から形成され、商圏人口は約9万人(匝瑳市人口の約2.2倍)、商圏からの吸引人口は約4万人(同約85%)、商圏内吸引率は38.3%となっている。

○第1次商圏は匝瑳市1市で吸引率(地元購買率)は61.4%、第2次商圏は2町で吸引率の平均は21.9%、第3次商圏は1町で吸引率は6.2%となっている。

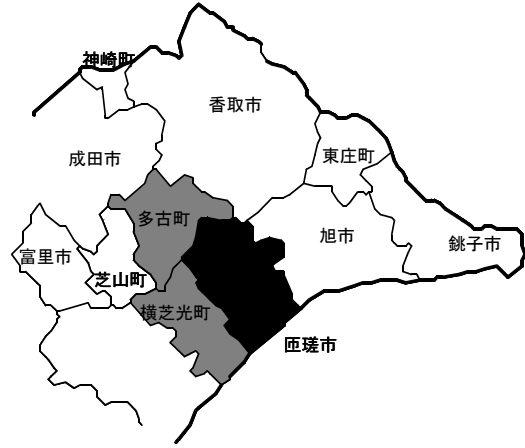
図IV-14-1 匠瑳商圏（衣料品・食料品・飲食・贈答品）

図III-9-31 匠瑳市商圏

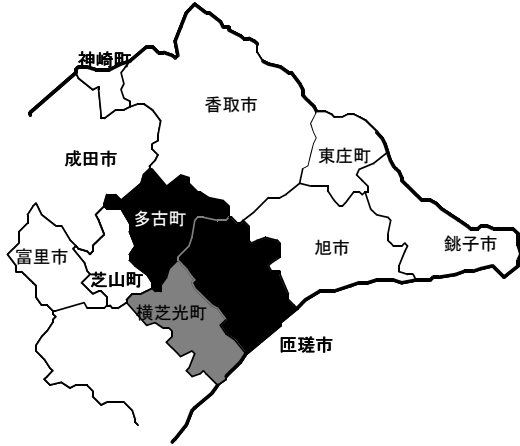
(衣料品)



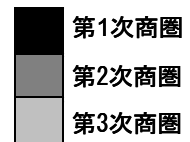
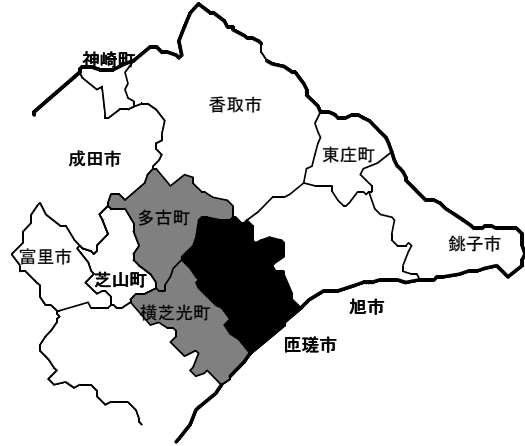
(食料品)



(飲食)



(贈答品)



(2)旧市町村区界（旧・八日市場市）での前回調査との比較

○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は前回調査時の1市2町から変化はない。
- ・第2次商圏は、前回調査時には2町であったが、1町が第3次商圏へ移動したため、1減して1町となった。
- ・第3次商圏は、前回調査時は2町1村であったが、2町村が圏外へ出た代わりに、第2次商圏の1町が入り、また、新たに1町が入ったため、数に変化はないものの3町となった。
- ・商圏全体では、前回調査時の8市町村（1市6町1村）から1減して7市町（1市6町）となった。

○商圏人口：前回調査時（114,327人）（注）から減少して104,412人となった。（前回比▲8.7%）

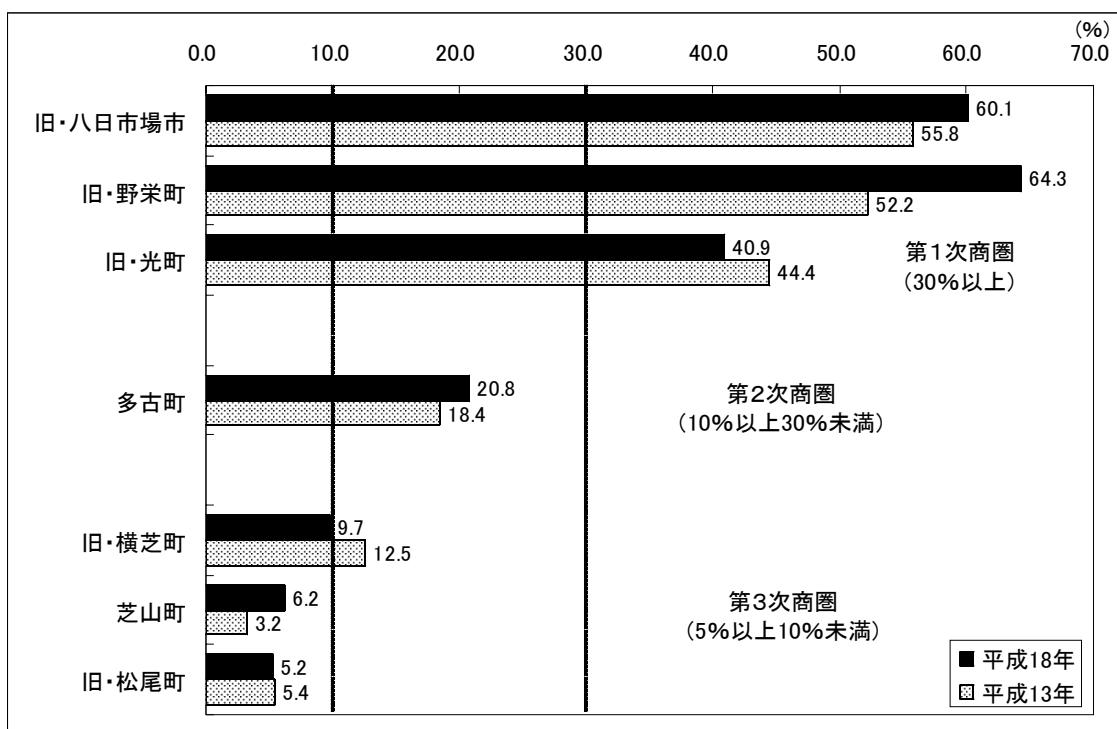
○商圏内吸引率：前回調査時（31.3%）（注）から上昇して34.9%となった。（前回比＋4ポイント）

○吸引人口：商圏人口は減少したものの吸引率が上昇したので、前回調査時（35,768人）（注）から増加して36,404人となった。（前回比＋1.8%）

○吸引力：吸引人口が増加したことから、前回調査時（109.2%）（注）から上昇して113.9%となった。（前回比＋5ポイント）

（注）前回調査時には旧・八日市場市は地元購買率（55.8%）が60%未満であり準商業中心都市あるいは単独商圏都市ではなかったが、外部の4町から10%以上、2町1村から5%以上吸引していたことから参考値として計算した。

図IV－14－2 旧・八日市場市の吸引状況の変化（旧市町村区界）



(3) 市町村合併による市町村区界変化に伴う変化

○商圏内市町村数

- ・第1次商圏は、旧市町村区界では1市2町であるが、新市町村区界では1市1町が合併により1市となり、1町が合併後（合併新町が）第2次商圏へ移動したため、2減して1市となった。
- ・第2次商圏は、旧市町村区界では1町であるが、第1次商圏の1町が合併後（合併新町が）第2次商圏に入ったため、1増して2町となった。
- ・第3次商圏は、旧市町村区界では3町であるが、1町は第1次商圏の1町と合併後（合併新町が）第2次商圏に移動し、1町は合併後（合併新市が）圏外へ出たため、2減して1町となった。
- ・商圏全体では、旧市町村区界では7市町（1市6町）であったが、新市町村区界では3減して4市町（1市3町）となった。前回調査時の8市町村（1市6町1村）との比較では4減となった。

↓

（現市町村区界での商圏の前回調査との比較）

○商圏人口：現市町村区界での商圏人口は前回調査時(114,327人)から減少して92,610人となった。（前回比▲19.0%）

○商圏内吸引率：前回(31.3%)から上昇して38.3%となった。（前回比+7ポイント）

○吸引人口：吸引率は上昇したが商圏人口が減少したため、前回(35,768人)から微減して35,478人となった。（前回比▲0.8%）

○吸引力：吸引人口が微減し、自市人口が合併により増加(+27.6%)したことから、前回(109.2%)から低下して84.9%となった。（前回比▲24ポイント）

(4) 衣料品購入における商圏内市町村の具体的な変化

○衣料品購入における匝瑳商圏内の市町村の具体的な変化を表IV-14-2に示す。

表IV-14-2 匝瑳商圏の市町村の変化（衣料品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年(八日市場市)		平成18年(旧・市町村区界)		平成18年(現市区界)		
	市町村	平成18年 での変化	市町村	平成13年 からの 変化	市区界変化 による商圏 からの移動	市町村	平成13年 からの 変化
第1次 (30%以上)	計 旧・八日市場市 旧・光町 旧・野栄町	3	計 旧・八日市場市 旧・野栄町 ※旧・光町	3	○(匝瑳市) ○(匝瑳市) △(横芝光町)	計 匝瑳市	1 ☆
第2次 (10~30%未満)	計 ※旧・横芝町 多古町	2 第3次へ	計 多古町	1		計 横芝光町 多古町	2 ☆
第3次 (5~10%未満)	計 旧・松尾町 ※旧・蓮沼村 ※旧・山田町	3 圏外へ 圏外へ	計 ※旧・横芝町 ※旧・松尾町 ※芝山町	3 第2次から 新規	○(横芝光町) ×(山武市)	計 ※芝山町	1 新規
合計		8		7			4

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内 △印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が圏外 ☆印は市町村合併市

(5) その他の品目（食料品・飲食・贈答品）における商圏内市町村の具体的な変化

○その他の品目の購入における匝瑳商圏内の市町村の具体的な変化を表IV-14-3に示す。

表IV-14-3 匝瑳商圏の市町村の変化（食料品・飲食・贈答品）

商圏 (基準吸引率)	平成13年(旧・八日市場市)		平成18年(現・市町村区界)	
	市町村		市町村	
		平成18年 での変化		平成13年 からの変化
食料品	第1次 (30%以上)	計 1	○(匝瑳市)	計 1 匝瑳市 ☆
	第2次 (10~30%未満)	計 2	○(横芝光町) ○(匝瑳市)	計 2 横芝光町 ☆ ※ 多古町 第3次から
	第3次 (5~10%未満)	計 1	※ 多古町 第2次へ	計 0
	合計	4		3
飲食	第1次 (30%以上)	計 3	○(匝瑳市) ※ 旧・光町 △(横芝光町) 旧・野栄町 ○(匝瑳市)	計 2 匝瑳市 ☆ ※ 多古町 第2次から
	第2次 (10~30%未満)	計 3	○(横芝光町) ※ 旧・山田町 ×(香取市) ※ 多古町 第1次へ	計 1 横芝光町 ☆
	第3次 (5~10%未満)	計 2	※ 旧・蓮沼村 ×(山武市) ※ 旧・千潟町 ×(旭市)	計 0
	合計	8		3
贈答品	第1次 (30%以上)	計 3	○(匝瑳市) 旧・野栄町 ○(匝瑳市) ※ 旧・光町 △(横芝光町)	計 0 匝瑳市 ☆
	第2次 (10~30%未満)	計 1	多古町	計 2 横芝光町 ☆ 多古町
	第3次 (5~10%未満)	計 0		計 0
	合計	4		2

※印は変化(商圏内の階級移動、圏外流出、新規商圏)のあった市町村

○印は市町村合併後も新市が同一階級もしくは上位階級の商圏内

△印は市町村合併後も新市が商圏内も商圏階級が低下

×印は市町村合併後は新市が商圏外 ☆印は市町村合併市